

あわみなと通信

特別号

暮らしを支える港湾と空港の話

● 小松島みなとオアシス防災訓練

平成24年10月7日(日)、昨年に引き続き3回目となる「みなとオアシス防災訓練」を、小松島みなとオアシス(小松島みなと交流センター kocolo)にて行いました。「小松島みなとまちづくり協議会」主催で、関係機関、地域住民、地元高校生など約60名の協力を得て進められました。

「小松島みなとまちづくり協議会」は、徳島小松島港本港地区を中心に、地域資源を活用した継続的なにぎわいの創出活動や、人材発掘などの地域活性化策を推進するため平成22年10月に設立されました。

防災訓練は、NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま事務局長のあいさつ、全体説明の後、以下の各種訓練を行いました。(詳細は次ページ以降)

また、今回は小松島市より提供していただいた非常食による調理実演と試食についても実施いたしました。

【各種訓練項目】

- ・ 東日本大震災の映像放映
- ・ 内閣府発表被害想定等の情報共有
- ・ 災害図上訓練
- ・ 応急手当訓練
- ・ 漂流物対策訓練
- ・ 非常食の調理実演及び試食



小松島みなと交流センター kocolo



開会挨拶



全体説明

INDEX

- 小松島みなとオアシス防災訓練 1
- 各種訓練の紹介①「東日本大震災の映像放映」「内閣府発表被害想定等の情報共有」 2
- 各種訓練の紹介②「災害図上訓練」「応急手当訓練」 3
- 各種訓練の紹介③「漂流物対策訓練」「非常食の調理実演及び試食」 4

● 各種訓練の紹介①

東日本大震災の映像放映

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波が押し寄せる映像、液状化発生の状況を放映し、地震・津波の恐ろしさを再認識しました。

映像では、建物が津波によって破壊されていく様子、車や船舶が押し寄せてくる様子など衝撃的な映像ではありましたが、南海地震や東南海地震など南海トラフに関係する巨大地震は30年以内に60～70%の確率で発生すると予想されており、いつ同じような状況がここ徳島県で発生してもおかしくない状況です。

今回の映像が危機意識向上につながればと考えております。



東日本大震災映像①



東日本大震災映像②

内閣府発表被害想定等の情報共有

平成24年8月29日に内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」から発表された最大規模の地震津波予測について、特に小松島市の情報をピックアップして共有しました。

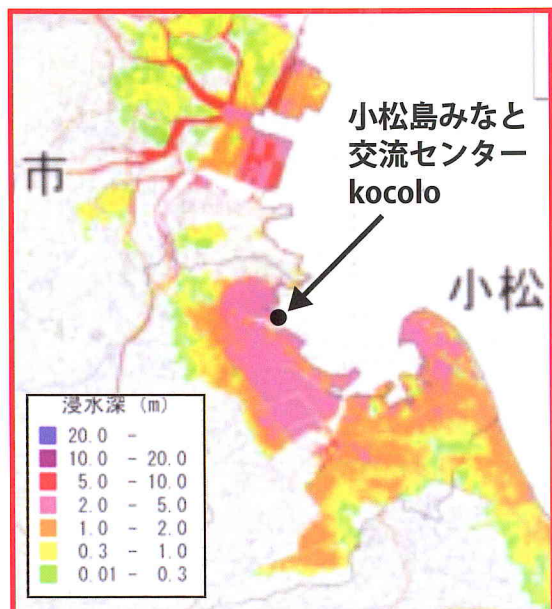
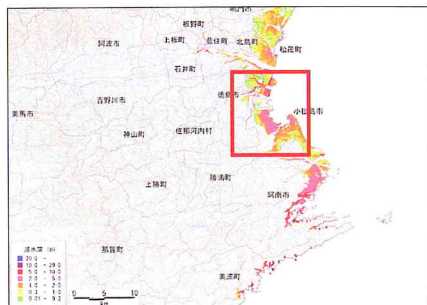
予測値としては、小松島市で震度7、津波高6.0m、1mの津波到達時間36分、浸水想定深さ2.0～5.0mなどとなっており、場所によっては2階建てで水没する建物も出てくることから時間内に避難可能な避難場所の再検討が場所によっては今後必要になることを理解してもらいました。

平成24年8月29日 内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」発表

小松島市

震 度	7
津 波 高	6.0m
津波到達時間(津波高+1m)	36分
浸水深(浸水域図より判断)	2.0～5.0m

浸水域図(内閣府ケース③)



● 各種訓練の紹介②

災害図上訓練

災害時の避難について、小松島市の消防隊員からレクチャーを受けた上で班別に分かれて実施しました。

訓練としては、小松島市周辺の大きな地図を用い、当該地域で大規模な地震・津波が発生する事態を想定し、地図上で避難場所を探し、安全が確保できる避難ルートを検討しました。

各班で議論する中、避難に際して橋の損壊や道路の液状化により避難が困難となる事、タンクや自動車、小型船が漂流物となって危険を及ぼす事などいろいろな意見が出てきました。

また、電柱や建物の倒壊も考えられるため徒歩による避難を前提としていることから、①津波襲来時間までに避難が可能な施設がどこにあるか。②想定している避難場所までルートが寸断された場合、代替となる避難場所は他にあるか。が検討する上で重要なことであると訓練を通じて理解してもらいました。



各班による訓練実施状況

応急手当訓練

小松島市の消防隊員による応急手当訓練を実施しました。

訓練としては、家庭にある物干竿のような棒と毛布を使った応急担架の作成や、毛布が無い場合の着衣による応急担架の作成、毛布のみでの応急的な救護者の移動方法等、様々なケースを想定して対処方法を講習していただき、簡易的に作った担架で実際大きな大人を持ち上げてみたり、また、包帯を使用した止血方法（直接圧迫止血）や出血が止まらない場合、脇や股関節の動脈を圧迫する方法（間接圧迫止血）を学び、実際動脈圧迫により脈が止まっていることを確認したりと実演を交えて分かりやすく説明していただきました。

なお、ロープワークについての講習もあり、一本のロープに掴みやすいよう連続で素早く節を作る方法を教えてもらい、応急手当訓練全体で大変驚かされる内容ばかりで参加した方からも「今後の役に立つと感じた」「知らないことが多かったが分かりやすく教えてくれた」など大変好評でした。

応急手当は、地震等の被災時以外にも、事故など様々な場面で突発的に必要となる初動対応です。間違った救護方法だと悪化する場合があります。参加者は熱心に、いざというときに役立てられるよう、正しい救護方法を学んでいました。



応急担架の作成



止血方法



ロープワーク

●各種訓練の紹介③

漂流物対策訓練

防潮堤は、台風などによる高波や高潮、津波等を防ぎ、背後地の人命、財産および社会経済活動を守るために整備されています。

訓練としては、役割を理解してもらった上で、実際に防潮堤の開閉を実施しました。

開閉作業を通じて、ゴミやバイク、自動車等の放置物があれば必要な時、瞬時に閉鎖することが出来なくなるため、日頃から注意が必要であることを理解してもらいました。



防潮扉閉鎖状況

非常食の調理実演及び試食

小松島市から、災害時に避難場所へ実際に支給される食料を提供していただきました。

今回は水を注ぐだけで作ることが可能な白米を実際に調理し、休憩時間を利用して参加者に食べてもらい、参加者からは、「想像していたよりおいしかった」との意見を多数いただきました。

東日本大震災の事例から1週間は、食料等の救援物資が届かないケースも想定されます。このことを考慮し、食料に限らず各自で必要な物を日頃から備蓄しておくことが重要であると考えています。



炊き出しセット



調理状況

訓練成果と主要な意見

今回の訓練では、地元の自主防災組織や小松島高等学校、小松島西高等学校に参加いただき、みなとオアシス周辺の地域の方々に密着した形で防災訓練を実施いたしました。なお、過去においては、「浮棧橋を利用した小型船による海上輸送訓練」や「緑地のオープンスペースでの炊き出し訓練」など、災害時のみなとオアシス周辺施設の有効性を検証しております。防災に関しては、防災に活用できる施設があるだけでは何の役にも立たず、その周辺にいる方々の活動が伴って、初めて効果が発揮できるものです。

今回、各行政組織並びに地元で活動する自主防災組織や高等学校など地域の住民に参加いただくことにより、周辺住民の防災意識向上、今後の防災活動に役立ったのではないのでしょうか。

災害時には、訓練以上の行動は、なかなか期待できません。地域の防災・減災には、出来ることから1つずつ行っていく地道な訓練の継続が重要です。

発行：小松島みなとまちづくり協議会

(平成24年度事務局：国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 TEL：0885-32-3357)